

左千夫の遺品

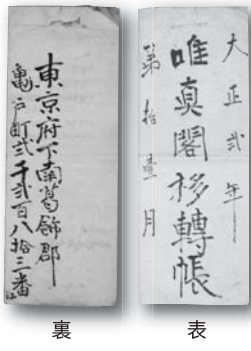
以前、ちやうこかん 徴古館開館式記念品五鈴鏡や竹下夢二の俳句を紹介した様に**数奇な運命を辿り寄贈された2点の資料**を紹介します。

ひとつは大正2年(一九一三)記載の「唯真閣移転帳」です。内容は茶室『唯真閣』の移転に伴う大工・鳶等の手間賃や茶菓子代などを書きとめた金銭明細帳です。移転は11月19日から始まり翌大正3年1月2日で終了。移転先は東京府下南葛飾郡亀戸二二八三番の伊藤芬宅です。当然、「唯真閣移転帳」の作成者は甥の伊藤芬氏です。

その後、『唯真閣』は昭和16年左千夫生家敷地内に移転、現在に至っています。大正2年7月30日に左千夫は死去していますから4か月後に移転が始まったわけです。『唯真閣』自身も数奇

な運命を辿っているわけですね。

では、「唯真閣移転帳」の数奇な運命についてお話します。「唯真閣移転帳」は歌人河野愛子氏が所有し(所有時は分からなかった、死去後、愛蔵本と一緒に東金市の図書館に寄贈されましたが、本の確認時に発見され、寄贈者の弟、青木克氏に返却され、6月に資料館にやってきました。



「唯真閣移転帳」

裏

表

愛蔵本は齋藤茂吉や土屋文明が著したアララギ関係の刊本です。河野氏も古本屋で購入したとの事、「唯真

閣移転帳」は芬氏の手を離れ、何時・何処で河野氏が購入した本に挟まれたのか？まさに数奇な運命としか言いようがありませんね。もうひとつは、伊藤左千夫が使用していた携行茶道具「茶ダンス」です。



茶ダンス

左千夫がお茶に堪能であったことは良くご存知のことと思います。

所有者は、市川市にお住まいの秋庭ふみ子さんです。ふみ子さんのご主人、陽さんあきひろが昭和25年に松尾高校の先生(ふみ子さんも同)をされていた時に校内放送で「野菊の墓」の寸劇を実演していたそうです。その放送をNHKのディレクターの方が聞き、NHKで全国放送を実施、その放送を聴いていた蔵桐軒氏が感動して、秋



茶室『唯真閣』

庭陽氏に伊藤左千夫から桐軒氏に譲られた携行の「茶ダンス」を陽氏に譲ったそうです。

桐軒氏から譲られて約60年、ふみ子さんはこの「茶ダンス」を保存し、活用してくれる施設を探して、本資料館に連絡をくれたそうです。

7月に資料館に寄贈されました。

縁は異な物粋な物と言いますが、伊藤左千夫の茶関係の資料が二点、時を同じ

くして寄贈されるなんて摩訶不思議な縁ですね。

問合せ

歴史民俗資料館

☎(82) 2842